

【随想】外国人が見た日本の電柱・電線（1）

今月から連載で、日本にお住まいの外国人の方々に日本の電線・電柱について語って頂きます。初回は、私たちNPOの会員でもあるJason Bellamyさんです。

What an eyesore!（何と目障りな！）

去年の6月、久しぶりに日本へ帰った私は、至る所で乱立している電柱や、空中を乱雑に交差している電線を見てそう感じました。ロンドンやパリでは考えられない光景です。せっかくの日本の美しい景観も電柱や電線が邪魔をしており、台無しだと感じました。写真を撮るにもどうしても電線が入ってしまう。何とかならないものなのかと考えさせられました。

そこで私はグーグルを検索し、「日本列島無電柱化マップ」というサイトを発見しました。このウェブサイトを読むことにより、私同様、何とかしなくてはならないと問題視する方が多々いることが分かり「ホッ」としました。そして、思わずこのサイトに投書し、“NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク”の事務局の井上さんや志熊さんと知り合うことができました。日本を心から愛し、国のために考えている方と会えて安心しました。



Jason Bellamy さん

世界第3位の経済大国に何故まだ電線や電柱があるのか？ 不思議な国日本。

私は日英ハーフの50歳男性。在日歴25年、イギリスで6年、そしてアメリカで19年間過ごしました。現在は横浜で自営業を営んでおります。幼年期と中学時代を日本で過ごした私は、当時電柱や電線などには全く目も向けず、都市計画にも無関心でした。慣れとは恐ろしいもので、電柱や電線があるのは当たり前とさえ思っていました。高校時代をアメリカ東海岸のボルティモアで過ごした私は、アメリカの市内に電柱がないことに気づきませんでした。その後ロンドンで大学時代を過ごし、ヨーロッパ各地へ度々旅行をしました。そしてその田舎の風景のあまりの美しさに感銘を受けました。その後、日本へ帰って来て、初めてその違いがわかったのです。「日本には電柱が乱立している。」勿論、日本だけではなく。アジア諸国（特にタイやインド）やアフリカでは更に醜い光景が見られます。しかし日本は世界有数の経済大国です。それなのに発展途上国と差ほど変わらないのです。

電柱は景観を損なうだけではなく、人の命にも影響を及ぼしている。

私は、過去に日本で友人をバイク事故で亡くしました。まだ16歳だった彼はバイクのコントロールを失い電柱に激突し、ヘルメットを被っていたにもかかわらず頭蓋骨骨折により他界しました。あの電柱さえなければ一命を取り止められたかも知れないと思うと残念で仕方ありません。

この財政難の中、日本では急ピッチでの電線の地中化はなかなか期待できないと思います。

しかし現在この国に電柱が3千万本乱立していると思うとゾッとします。技術大国の日本です。より安い効率的な電線地中化策を考えてもらいたいと思います。公共工事についてもガス、電気、電話、水道とバラバラに工事を行わず一緒にすることによりコスト削減ができるのではないのでしょうか。そして大型宅地開発のような新規の開発プロジェクトには政府や自治体が電線類地中化を義務付けることを望みます。今後は国土交通省、電力協会や地元の政治家に強く訴えて行きながら、国民に電線類地中化の重要さというawareness（認識）を持たせるのが我々の使命ではないかと思えます。

“Utility poles are a form of visual pollution.”（「電柱はビジュアル公害だ！」）

ジェーン・ベラミー(Jason Bellamy)

「私達」が住む日本の空を、「私達」が美しい空へ変えましょう！

美空～MISORA～

第28号

発行日:2010年11月26日(金)

発行者:NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク
理事長 高田 昇

【活動報告】

1. 大阪府主催の“電線の無い街づくりに向けた講習会”で、高田理事長、井上理事が講演を行いました。

10月22日、大阪WTCにおいて大阪府の“電線の無い街づくりに向けた講習会”が行われ、当NPOの高田理事長と井上理事が講演しました。80名を超える大阪府及び市町村の職員が出席され、開会の挨拶では小河副知事が電線類地中化に対する思いを語られました。

[小河副知事の挨拶の要旨]

10年前、道路課長だった時に“電線類地中化マスタープラン”を作り、「①メイン道路の電柱は止めよう。②景観の良い所は地中化しよう。③駅前狭い道路も電柱は止めよう。」という大きな方向を決めた。しかし、副知事になって戻ってみると、箕面の新町も枚方宿も電柱がまだあり、腹が立ち、意識的に電線類地中化をやろうと決めた。

日本人は都合の悪いものは見ないようにしている。建築家は建物には関心を持つがその前にある電線、電柱には無関心。京都の祇園白川は非常に美しいが、裏に入ると電線・看板だらけ。しかし、観光客は「京都はきれい。」と言って訪れる。これは意識の問題で、意識すると本当に邪魔と感じる。皆さん意識を持ってこの問題に取り組んで欲しい。

電線類地中化は費用がかかるが思い続けて欲しい。国が言う高コストな方式が全ての場所に必要なのか。やり方は一杯ある。これを今日の講演に期待している。

また、電線類地中化は最終的には地域主導で進めるもので、「行政は地域だけではできないことを解決する。」という行政と地域の協力が必要である。

今日は、電線類地中化をすすめるにはどう工夫すれば良いかをお聞きし、意見交換して頂きたい。



2. “第5回 実践！美しい街作りセミナー”を京都で開催しました。

11月20日、『観光都市 京都の未来の景観・街づくりを考える。』というテーマで“第5回 実践！美しい街作りセミナー”を京都で開催しました。当日は、第一部として京都市議会議員の隠塚 功氏から、現在の京都が抱えている問題点と、問題解決のための住民の取り組みについて講演して頂きました。第二部のワークショップでは、京都の未来の街づくりについて、参加者に議論して頂き、最後に“京都の街づくりに関する無電柱ネット2010宣言”として、共同宣言：『観光客からも、市民からも愛される京都にするために、 私たちは自ら声を掛け、行動します！』を採択し、これからの街づくりへの積極参加を誓いました。

【特集】「電線類地中化の新技术とコスト」

10月22日に大阪府の主催で行われた“電線の無い街づくりに向けた講習会”での井上理事の講演から、「低コスト化のための電線類地中化の新技术の提案」を紹介します。

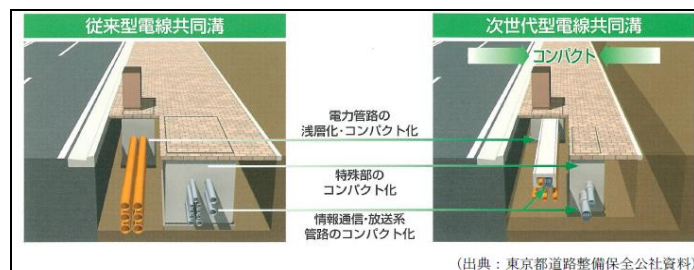
1. 電線類地中化の変遷

電線類地中化は技術開発により、CAB方式 ⇒ 電線共同溝方式 ⇒ 新構造電線共同溝方式 ⇒ 舗道一体型電線共同溝方式(次世代新) と変遷しており、

浅層化とコンパクト化によりコストも下がってきている。

しかし、それでも次世代新方式のコストは5.6億円/km(従来方式は6.8億円/km)で、電線類地中化の促進のためには更なる低コスト化が必要である。

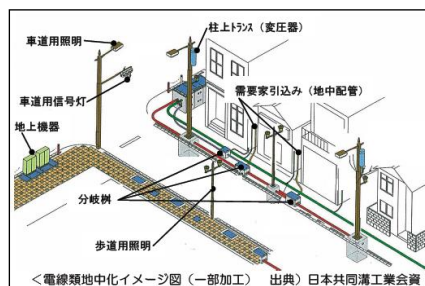
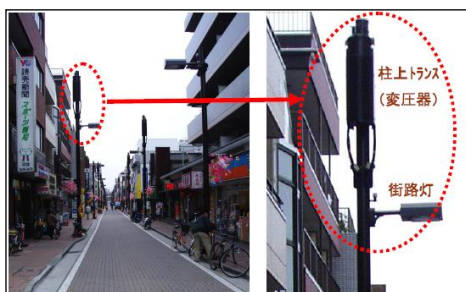
以下は、低コスト化のために実際に行われた新技术の紹介です。



2. 電線類地中化の提案(1) : 柱状トランス方式

道路幅員が狭く、地上機器の設置が困難な場所で採用された“ソフト地中化”といわれる方式です。設置場所に苦慮する地上機器を柱状にすることで、柱は残るが、見苦しい電線がなくなり、景観もすっきりする。また、近接する高校内等に地上機器を設置することによっても、少し離れた道路の地中化が可能になる。

概算費用は、2.3億円/km。



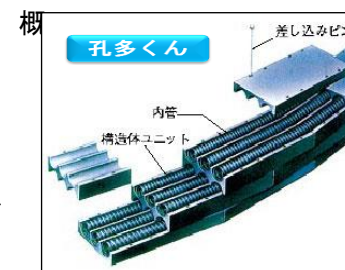
3. 電線類地中化の提案(2) : 浅層埋設型配管方式

道路幅員が狭く、かつ、その中に下水道等の既設配管や人孔が埋設されており、通常の電線共同溝管路の敷設が困難な場所採用された方式です。

狭小道路での施工が可能で、かつ、浅層埋設なので低コスト。

当NPOではメールマガジンも配信しており、電線地中化に関するコラム・情報を月2回お楽しみいただけます！ぜひこちらにもご登録ください！
→ <http://www.mag2.com/m/0000266000.html>

リサイクルプラスチックを用いた合成樹脂多孔管を開発し、工事の省力化、工期の短縮、コストダウンを追求した新しい地中化方式。



概算費用は、1.9億円/km。

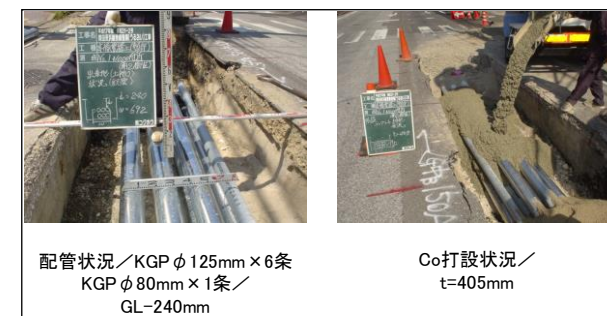


4. 電線類地中化の提案(3) : 特別浅埋配管方式

電線管理者がケーブル保護の観点から提案(2)の管材(孔多くん)を敬遠することが予想される場合の方法です。

電線管理者の協力と、電線類地中化という両方の要求事項を一度に解決する、これまでにない電線類地中化方法。従来管を使用することで、電線管理者への理解を得やすくなる。

概算費用は、1.7億円/km。



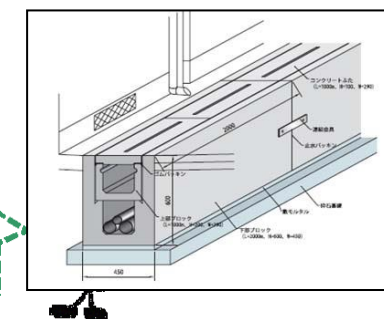
5. 電線類地中化の提案(4) : 二層側溝型配管方式

コンクリート製品メーカーと当NPOが共同で開発した方式で、懸案の側溝の整備と、電線類地中化という両方の要求事項を、一挙に解決する、まったく新しい電線類地中化システムです。

現在のスペースを有効に活用し、なおかつ、将来的なメンテナンスにも対応。

[特徴]

- 下層にケーブルを配置し、上層に排水路を設ける。
- 樹部では、上層の排水路を道路側にオフセットする。
- 幅員の狭い道路での電線地中化をコンパクトにできる。



当NPOのHP(ホームページ)でも、最新情報を詳しく載せていきますので、ぜひこちらへもアクセスしてください！
<http://nponpc.org/top.aspx>

- 官民境界に設けるため、民地へのケーブル引き込みが容易。
- 通常の点検やケーブル敷設は柵部から行うが、大規模配管修理時は、上部ブロックの取り外しが可能。
- 上部ブロックの断面形状は自由に選べる。

概算費用は、2.8億円/km。

当 NPO ではメールマガジンも配信しており、電線地中化に関するコラム・情報を月2回お楽しみいただけます！ぜひこちらにもご登録ください！
→ <http://www.mag2.com/m/0000266000.html>

当NPOのHP(ホームページ)でも、最新情報を詳しく載せていきますので、ぜひこちらへもアクセスしてください！
<http://nponpc.org/top.aspx>

